

(5) その他

1) 補習授業

工学部は23年度補習授業として下記のように実施した。

・補習教育:

本年度は、新入生ガイダンスの週に全新入生に対して物理・化学・数学の基礎学力テストを実施した。教員の負担軽減のためにマークシート方式とし、採点集計については外部委託した。成績についてはWebCTに入力し、学生個人が自らの成績を閲覧できるようにした。なお、22年度に実施した英語試験(TOEFL-ITP))については内容をTOEIC-IPへと変更した上で、2年次後学期定期試験中に実施する方式に変更した。TOEIC-IPは一年次の英語(教養科目)でも導入されており、学部時代を通して英語能力を高める上でよりバランスのよい体制となった。前年度と同様、物理・化学・数学について、成績下位の学生および希望する学生に対して補習授業を実施した。物理および化学の補習授業は、理数学生応援プログラム担当教員(2名)による講義と演習を4月の連休明けから毎週1回、合計それぞれ10回実施した。22年度までは回を重ねる毎に受講者が減少する問題があったが、①毎回出席状況をモニターして各学科での指導を強化した②実験科目など補習授業時間とのバッティングを避けるよう配慮した結果、出席率は大幅に改善した。数学の補習授業は、前学期・後学期とも新入生を対象に実施した。講師1名に学生5名以内のクラスを設け、個々の学生が履修中の数学科目について理解不十分の項目を講師に質問し、講師が個別に回答、解説する形式で補習授業を行った(参加は学生の自由意志)。前期5コマ・後期2コマの補習クラスを開講した。講師は工学基礎教育センターの教員3名とものづくり創造融合工学教育事業による事業担当教員3名で担当した。

・基礎解析(留学生科目):

前学期と後学期でそれぞれ留学生を対象に開講した。ほぼマンツーマンに近い形で個々の学生の苦手とする数学科目の内容について、講師による丁寧な解説と問題演習の反復により、学生の理解の促進を図った。また、数学教育に加えて、プレゼンテーション演習を授業に組み入れることで、留学生の日本語コミュニケーション能力の向上も目指した。